

令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会 第1回 幹事会 議事録

開催日時：令和4年4月21日（木） 18：00～19：30

開催形式：WEB会議 四国がんセンター地域医療連携研修センター研修室①からの発信

司会進行：四国がんセンター 幹事長 橋根 勝義

出席者：資料1「幹事会名簿」

議題

開会の挨拶<山下協議会会長>

連携協議会も引き続き我々の方で盛り立てていきたいと思っておりますので、是非、ご協力をよろしくお願いいたします。残念ながら今回もWEB会議の形となってしまいましたが、活発なご意見を頂ければ幸いに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

1. 令和4年度幹事会 自己紹介・名簿確認（資料1）

- ・自己紹介 WEB開催の為割愛、資料1にて確認。

*新しい年度になって多くの異動があり、多数入れ替えがあったと思いますが、事務局で把握して名前を書かせてもらっているのも、もし何か間違いがあれば、連絡をお願いします。

- ・20210807 役員会および専門部会報告会議事録（資料2）

- ・20211007 幹事会（メール会議）議事録（資料3）

第1回の幹事会（2021年4月）はWeb会議として開催したが、第2回は、審議事項があまりなかったことから、10月7日～10月13日の期間において、メール審議とした。

- ・20211204 第2回専門部会報告会議事録（資料4）

*議事録は、一度、メールの方ではお知らせしていますが、再度確認をお願いします。

2. 3. 2022年度協議会活動年間スケジュールと2022年度年間スケジュール案（資料5、6）

2022年度中の開催協議会について

- ・4/21（木）第1回幹事会（本日）
- ・8/6（土）役員会および専門部会報告会

*参加不可の施設がないようであれば、8/6（土）に決定でよいか。都合が悪い施設があれば、調整しますので、連絡をお願いします。

・10/13（木）第2回幹事会

*昨年度、一昨年度はメール会議となった。今年度の開催については具体的に決定できていないが、重大な議案がなければ、今年度もメール会議になるかもしれません。これについては状況をみながら事務局から連絡する。以前10/6（木）で案内していたが、四国がんセンターが国立病院総合医学会の開催と重なり、10/13（木）を第一候補として検討したく、訂正をお願いします。

・12/3（土）第2回専門部会報告会

*予備日として11/26（土）も挙げているが、12/3（土）で予定してよいか。また、多くの方に参加をしてもらおうとため、土曜日ではなく平日の開催ではどうかという意見があり、その場合は12/8（木）も候補に挙げている。この点については、今後も検討する。

<橋根幹事長>

会議の開催方法について WEB 会議が続いているが、感染状況が落ち着いて可能であれば、集合会議も考えているが、この点について如何か。遠方の方は WEB がよいなどあるかと思いますが、また、ハイブリッド形式も学会ではよくあります。ご意見があれば、後からでも良いので事務局までご連絡をお願いします。

*今年度の予定は、以上で決定とさせて頂く。何かあれば、事務局までご連絡下さい。

2023 年度の協議会年間スケジュール（案）について

*4月の第1回幹事会のみ、本会議で決定したい。

4/20（木）が第一候補としているが、泌尿器科学会の総会と重なっているため、追って調整する。WEB か集合かは未定。気が付いたことがあれば、お知らせ願います。

*役員会、報告会などは、先の予定ではありますが、候補としてこのように考えているので、お知らせします。

4. 今後の専門部会報告会のあり方について

先に提示した日程案に続く内容になるが、平日開催の方が多くの方が参加しやすい、ということがあれば、変更も可能なのでご意見をお願いしたい。

5. 会議への招聘状の取り扱いについて

招聘状について、今回も事務局から送らせて頂いたが、特に各施設で問題となるようなことはなかったため、引き続き同様の形で事務局から招聘状を発行して、なるべく多くの方に参加して頂けるような形にしていく。

6. 愛媛県健康増進課（資料7）

1) 第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価と今年度の事業の概略について

第3期愛媛県がん対策推進計画は、平成29年度の末に策定し、計画期間が平成30年度から令和5年度までの6年間となっている。中間の年度にあたる令和2年度が中間評価の策定期間であったが、1年遅らせて令和3年度に、愛媛県がん対策推進委員会、またその専門部会にあたるがん相談支援推進協議会、在宅緩和ケア推進協議会の3つの会議によって中間評価をとりまとめて頂いた。がん対策推進計画の大きな数値目標としては、令和4年度までに75歳未満の年齢調整死亡率を67.9まで下げることが目標となっている。

I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・全国と比較して肝がんや乳がん、子宮がんなどの死亡率が顕著に高い
- ・がん検診の受診率は全国平均を下回っている状況
- ・新型コロナウイルス感染拡大による検診控え、受診控えの影響が出ている

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん登録情報をはじめとする実態データを活用して県民への注意喚起や本件独自の課題の抽出に取り組むことを検討されたい。
- ・検診受診の啓発に「がん対策推進員」を有効活用するなど、検診受診率の向上や死亡率の低減を図るための取組みの強化が必要

II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・セカンドオピニオンに関する話しを受けた患者が少なく、医療者間での情報共有や患者が相談しやすい体制作りに大きな課題がある
- ・患者の2割が専門的な医療を受けられたと感じていない（希少がんについては4割がそう感じていない）

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・患者やその家族が納得して治療を受けられたと感じられるよう、医療機関や医療スタッフ間での更なる連携強化、情報共有が必要
- ・専門的な人材の確保・育成・配置に更に注力されたい

III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・依然として、患者やその家族に対して十分に情報が届いているとは言えない
- ・がん患者の就労や小児・AYA世代など特有の課題を抱えている世代への支援やサポート体制が不十分である

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん相談支援センターを核に、医療関係機関や行政、患者団体等がそれぞれの立

場で情報の共有や周知の強化を図ることが必要

- ・相談支援や啓発に携わる人材育成にも取り組んでいくことが必要複数の分野に係る意見

複数の分野に係る意見

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・次期計画の目標や指標の設定にあたって、各分野の主要な取組みの内容や成果を検証、評価するためのエビデンスについて改めて関係者間で御議論いただきたい。
- これについては、どういう取組みを何件実施したかということだけではなく、その取組みがどのような成果をもたらしたかというのを重視して欲しい、という意見であった。
- これを踏まえて、残りの計画期間である令和4年度、令和5年度に、委員の皆様から出た今後さらに評価することが必要である取組みに対して注力し、次期計画を策定していく上での材料としていきたいと考えている。医療機関の皆様におかれましては、今後とも引き続きご協力をお願いできればと思います。

2) 令和4年度の愛媛県のがん対策予算について

全体目標の3本柱に応じて、相談に対する事業や検診受診率の向上に対する事業、各医療機関での相談体制の強化などの取組みを、今年度に引き続き実施していく。

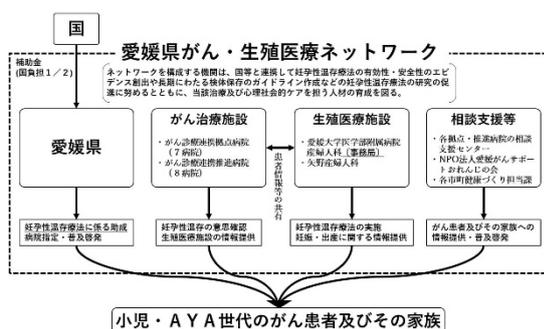
3) 愛媛県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

令和3年度末に国が事業を実施すると決定している。愛媛県では、準備期間を経て令和4年度から開始することができた。現在は、妊孕性温存療法の指定医療機関となる病院の指定の手続きを進めている。愛媛大学医学部附属病院の産婦人科、矢野産婦人科の2つの医療機関が対象となる。

温存後生殖補助医療については、指定をどのようにするかは国のほうで現在検討中であるため、指定はもう少し遅れる。

事業の実施体制については、2つの医療機関で連携をとりがん治療の影響がないかについては意見書として出して頂き、2医療機関の了承がとれたものについて、患者に治療費を助成するという仕組みとなっている。

3 事業イメージ



年度末に各医療機関の事務担当者様には要綱をお送りしているが、医療従事者の皆様に情報について周知させて頂くとともに、ご不明な点は、健康増進課健康政策グループまでお問い合わせをお願いします。

<橋根幹事長>

妊孕性温存は新しく始まった事業ですので、これからわからないことが出てくるかもしれませんが、不明な点があれば、事務局や愛媛大学、愛媛県の健康増進課に問い合わせして下さい。

7. 報告事項

1) PDCA 部会（資料 8）

<PDCA 部会 青儀副部会長>

PDCA 活動はゆっくりとすすんでいる段階であるが、今後の方針等も含めて説明申し上げます。

1. PDCA 活動：質評価指標調査、QI 研究、患者体験調査

- ・毎年度末に行っている東京大学の質評価指標調査については、愛媛県全体の医療の質の向上を目指している。調査結果については、都度、皆様にご提示する。
- ・国立がん研究センター東班、国立病院機構の臨床評価指標等で興味を持っていただけるような QI 研究の情報を使って、新たに愛媛県独自の臨床指標を設定し、活動の一旦として行っていきたい。
- ・国立がん研究センターで 3～4 年に 1 回程度、患者体験調査が定期的実施されている。患者さん自身に診療内容を評価して頂くという患者目線の評価指標となるので、これを活用させて頂いて、県全体でデータを共有し、PDCA 活動につなげられないかという検討もおこなっている。質問の例)・「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができたか。・がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか。など。

2. 相互訪問監査を WEB 監査に

相互訪問調査は 5～6 年前に実施しているが、今回はより負担が少ない方法で実施したいと考えており、Web による施設間ピアレビューを計画している。国立がん研究センターでメソッドが完成しているので、簡易な形のピアレビューを何年かかけて（数施設ずつ）おこないたい。正式な提案ができれば、ご案内する。

3. 連携協議会部会活動周知のためのアンケート調査

専門部会活動に対しては、外部評価をされていないのではないかという視点から、各施設幹部（PDCA 委員など）と一般職員（非専門部会員）の皆様を対象として各専門部会の活動の認知度や評価をアンケートとして実施し、それを協議会自身の PDCA 活動とできるのではないか。質問の例)・活動の認知度『がん登録でみる愛媛県のがん診療』・全国がん登録データ・がんサポートサイトえひめ・研修会など。・活動の評価 実際に役に立ったことがあるかないか、利用したことがあるかないか。期待。など。

まずは、がん登録専門部会からはじめるので、アンケートが届いたら、回答をお願いします。

4. 通院治療室の運用セミナーのご案内 がん化学療法について、多職種チーム、医師・看護師・薬剤師のみならず MSW も含めたチームをつくり、患者とのコミュニケーションをいかにとるかという点を主眼としたセミナーが国立がん研究センターを中心に開催されており、四国がんセンターが参加したので、共有させて頂き、PDCA 活動としたい。5 大がんの化学療法に関する e-learning を受けた後、チームビルディング、コミュニケーションに関する講義を受講し、どのような対応をしていくかをはかる。正式な案内ができればお知らせする。

5. 診療ガイドラインの一覧を更新したので、活用して頂きたい。

《質問特になし》

2) がん地域連携専門部会（資料 9）

＜がん地域連携専門部会 橋根部会長＞

・コロナ禍で多くの影響を受けたので、ウィズコロナという視点を見据えて、どういう活動があったかという点をアンケートで調査し話し合った。中でも、緩和病棟がコロナ病棟に代わったというようなことが全国的にも問題となったので、愛媛県ではどうだったのかなどを中心に調査をおこなった。実際に緩和病棟がコロナ病床に転嫁したという施設もあったが、現在は元に戻っている。

・緩和ケアに関する内容、現状、コロナ禍での面会の状況、情報をどのようにしたのかという点なども議事録にまとめているので目を通して頂きたい。

・連携に関しては、リモートカンファレンスを有効な手段として活用出来はじめたため、実際に各施設でどのような状況かという点についても調査した。有効活用できている施設となかなか難しい施設があるが、共通して、まだコロナが落ち着かないのでこれからも活用していかないといけないという認識であった。

・ネットワーク連携について 昨年度は県立中央病院で新たに開始されたので、紹介して頂いた。各施設徐々にネットワークの活用が広がってきているので、全国的に共通のネットワークができて同じように見られるようになればよいというのが地域連携の希望であるので、そういった点については、協議会を通じて引き続きはたらきかけていきたいと考える。

▶今年度の活動予定

・オンライン面談。リモートを活用した活動を推進していくことを引き続きおこなっていく。

《質問特になし》

3) 緩和ケア専門部会（資料 10）

＜緩和ケア専門部会 成本部会長＞

・11月17日にWeb会議で専門部会を開催し、グループワークをおこなった。

- 1) 各施設のコロナ禍における現状報告
- 2) ベテル病院中橋先生から愛媛県の麻薬の使用調査について
- 3) グループワーク「今さら聞けないオピオイドの使用法 あなたの施設はどうしていますか？」

事前に次のような設問（1. 疼痛コントロールについて 2. タイトレーションの方法について 3. 難治性疼痛の場合、治療はどうすることが多いか？ 4. 非がん性の呼吸不全（呼吸困難）、慢性心不全の患者に対して、どのように麻薬を使用しているか？）でアンケートをおこない、アンケート結果をもとに 5 施設に発表を依頼し、ディスカッションをおこなった。

・愛媛県全体の麻薬使用量は、2015年までは微増であったが、その後はほぼ横ばいである。薬剤の種類については、フェンタニール、オキシコドン、の順。2018年からヒドロモルフォンが徐々に使われ始めている。

・初回オピオイド導入時、使用頻度の高いオピオイドで分けると、オキシコドンが多い施設、トラマドールが多い施設、それ以外の施設に分かれる。

・タイトレーションの方法は、持続皮下注射で行うのが素早くできて細かく調整でき、手技的にも慣れれば有効な方法ではないかということが議論された。内服の場合は、レスキューを使用しながらタイトレーションしていくという施設が多かった。

・難治性疼痛に対しては、神経ブロック、放射線治療の選択肢も検討する。メサドンが使われることが多いが、使える施設が限られているので、e-learningを受講して頂いて、使える施設が増えてくるとよい。

・非がん性の呼吸困難では、症例がある施設で、使用している施設が出てきている。

・緩和ケア研修会 PEACE の開催について

昨年8月に厚生労働省から出された事務連絡により、今年度は研修会をWEBで開催する施設も出てくると思うが、WEBで開催しても修了証が発行されるので、各施設で検討して頂けるとよい。四国がんセンターは、3月に、他施設からの参加もありWEBで開催した。

《質問特になし》

4) がん相談支援専門部会 (資料 11)

<がん相談支援専門部会 灘野部会長>

・昨年度の活動報告

昨年の幹事会以降の活動内容については、まとめた資料を添付しているので、目を通して頂きたい。

・11/11 に専門部会を Web 会議で開催している。

・がん相談員研修ワーキング・10/23 に愛媛県がん相談員研修会 WEB で開催した。参加者は 21 名 (県内 12 名、県外 9 名)。ご協力ありがとうございました。・がん相談員フォーラム in 四国 (2022/1/22)。徳島と高知の主催で開催された。受講者 65 名のうち県内は 21 名で、四国では最も参加が多かった。ご協力ありがとうございました。

・広報活動ワーキング がんサポートブックえひめの改訂をおこなった。12/17 にオンラインで検討会をおこない、がんサポートブック第 4 版が完成している。

・AYA 世代支援活動のアンケートについて 今年の 1 月にアンケートを実施した。各施設でのがん相談対応や AYA 世代患者支援の活動に活かすことを目的として、拠点・推進病院での活動状況を皆で共有することができた。

・チェックリストワーキング 毎年 1 回、チェックリストを用いて相談員の PDCA 活動をおこない、相談員の質の向上に努めている。今年もまとめているので、資料に目を通して頂きたい。

・今年度の予定

1) 災害ワーキング 目的を達成できたので、活動を終了する。「自然災害発生時における研修会等の取り扱いについて」も完成し、連絡網 (メーリングリスト) がうまく活用できるかというシミュレーションについては、5 月に実施する。

2) がんサポートブックえひめ第 4 版の発刊について がんサポートブックえひめが完成したので、注文を受け付ける。沢山注文して頂けると単価が安くなるため、ご検討をお願いしたい。さきほど愛媛県からも報告があったが、患者体験調査では情報提供や相談体制が十分ではないということであるため、相談支援専門部会としては、この冊子を利用して広報をおこなうことを予定したい。また、告知をしたときに医師からサポートブックを手渡して頂きたいということから、何か取り組みをおこないたないので、ご協力をお願いしたい。

3) 毎年おこなっていた出張相談は、今年もコロナのために開催できないと思われる。

4) 相談員研修ワーキング 今年度は愛媛が主催で「地域相談支援フォーラム in 四国」を開催する。両立支援をテーマに 10/22 にオンラインで開催する。ファシリテーターや参加者が多数必要となるので、ご協力をお願いしたい。

5) チェックリストワーキング 今年度も例年同様に実施するが、オンラインでの入力フォームを活用し、入力の手軽減をはかることを計画している。

以上の報告のように、相談支援センターのスタッフは頑張っておりまして、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

《質問特になし》

5) がん登録専門部会（資料 12）

＜がん登録専門部会 寺本部長＞

・昨年度の活動報告

がん登録専門部会は全国がん登録、地域がん登録の精度向上を目的としている。

今年最大のニュースとしては、「Cancer incidence in five continents」に愛媛県からもデータを提出して参加することになった。今までは、全国で9県の参加であったが、愛媛も加わった。これは、WHOのブルーブックなどで、どこの国に何のがんが多いというような最初のページに書いてあるようなデータの元になっているもので、精度の高い地域がん登録であると認められた国と地域のみ参加できる。生存率では、既に3年ほど前にコンコルドスタディに参加しており、愛媛県も世界的に生存率と罹患率の両方が揃ったことになる。

全国がん登録のデータ登録状況 拠点・推進病院全てにおいて3月に提出済み。愛媛県オープンデータカタログというところに3年分掲載されているので、罹患率の集計表などが必要な場合は、見て頂けるとよい。各病院の集計については協議会ホームページ「がん登録でみる愛媛県のがん診療」から参照頂きたい。

・全国がん登録室の外部監査について

法律で定められ4～5年に1度実施される。オンラインおよび現地監査がおこなわれた。

・愛媛県健康増進課 三宅様より

がん登録推進法の20条に基づいた全国がん登録から院内がん登録への予後情報の提供に関して、新たな申請書類を作成した。セキュリティ関連の確認や整備もお願いしたい。データ提供を受けるには、1 院内がん登録実施規定 2 院内がん登録情報利用規程 3 院内がん登録情報管理規定 4 院内がん登録委員会実施規定と実施。これらに相当する規定とその実施が必須である。

・がん登録部門の体制について 初級認定者がいないと、国立がん研究センターにデータの提出ができてデータとして処理されないということが起こるので、初級認定者の最低1名の確保が必要である。また、協力医師等の欄に、カウントできる医師が増えると嬉しい。

・院内がん登録に関して 実務者研修や業務について検討するため活動検討委員会を発足した。1 研修会企画・運営グループ 2 学び方・教え方～私はこうしています～ 3 日常業務悩み相談（施設間交流）グループ 4 はじめての試験対策グループ（5 勉強会グループ） 6 愛媛県の院内が

活動予定

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1月												
2月												
3月												
4月												
5月												
6月												
7月												
8月												
9月												
10月												
11月												
12月												

ん登録データ利活用グループ。

今年度はどのような活動をしていくか、WEB 検討会をおこない、活動方針を決定した。
試験対策・実務者の育成・・・など。

・5大がん登録講座 毎年開催しているが、今年度も後半に開催予定。最近ではWEB開催のため日本中からアクセスがあり、100数十人の参加がある。今年度は第10回目の記念大会。

院内がん登録・がん登録も研修活動をおこない、レベルを上げていく必要があるが、それには十分な人材が必要である。診療情報管理士においては、研修会を開いても参加できない、ということがおこりがちなため、研修の参加、自習の時間などに対する配慮を是非お願いします。

・全県集計について

最近では総会等でお知らせができていないので、利用状況についてはそれほど広がっていないかもしれない。この点については、考えていく必要がある。

・コロナ速報について

- 新聞2社掲載
- 日本医師会 JACR 共催シンポジウム
- 東京都がん診療連携協議会
- 日本疫学会シンポジウム
- 愛媛県知事記者会見
- NHK などの反響があった。

愛媛県内ではがん医療崩壊というほどの大きな変化はないが、様々な影響が見られた。

- 検診・人間ドックが特に必要とされる年代での受診率・発見率が下がっている。
- 患者の移動・センチメントが低下している。

健康のための活動は自粛してはならない。 というメッセージを発信した。

コロナ速報版『がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020年診断』報告 on line meeting
« 愛媛県がん診療連携協議会 HP https://ecch.jp/?page_id=2006

今年度も実施する。また、コロナ速報は愛媛県が全国に先駆けての報告となったが、今後は全国と連携してできるとよいと考えている。

E-CIP～がんサポートサイトえひめ

愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイトで、「愛媛県がん対策推進計画」に基づく。がん登録専門部会とがん相談支援専門部会が合同で活動している。

広報をどんどんしていく必要があるが、紹介のためのデジタルサイネージなどの資料を作成したので、待合室等にデジタルサイネージがある施設の方、データを提供しますので、是非使ってください。

・令和4年4月現在 コンテンツは充実～

-がん患者のためのコロナ情報

-臓器別 はほぼ揃ったので、内容を充実させていく予定である。リクエストがあれば追加は可能。

-トピック別 あなたを支える

-アクセス状況 月 2,000 以上。もう少し伸びてもよいと思う。

《質問特になし》

6) がんの集学的治療専門部会 (資料 13)

<がんの集学的治療専門部会 青儀部会長より>

1. 薬薬連携
2. ゲノム研究と治験情報提供について
3. HD 曝露共同研究
4. CSTD によるコアリングの調査結果
5. 新規検討課題：IT を用いた副作用管理ツールの開発・運用
6. 放射線治療の病院間紹介状の提案
7. 外来がん化学療法室のブラッシュアップセミナー
8. がんサバイバーシップについて

1. 薬薬連携 県内全体の薬薬連携をすすめていく活動をおこなっている。連携協議会共催講演会の開催（昨年度は 10/27 に Web で開催 Oncology Specialist Meeting 2021）は勿論であるが、システムづくりを急いでおり、宇和島の竹内先生や日赤の村上先生を中心に、ネットワークを構築している。

2. ゲノム研究と治験情報提供について 愛媛大学薬師神先生や四国がんセンター消化器内科仁科が中心となってゲノム医療を展開しているところである。以前より連携協議会各施設にご協力頂きすすめていた SCRUM JAPAN 研究については、今後はスクリーニング研究としては終了することとなった（フォローアップ調査については継続）。日常的にゲノム医療を推進していくためにも、今後も専門部会において努力していきたいと考える。

3. HD 曝露共同研究の報告 各施設からご参加頂いて、抗がん剤におけるいろいろな場所の曝露調査をさせて頂いている。3 回目が済んだところであるが、汚染が出る場所についての対策を皆で共有しながらすすめている。調整部門、投与部門について、項目ごとに達成

度、改善度をみており、愛媛県全体としてグラフ化すると、いずれも年度をまたぐごとに改善がみられることがわかり、明確なアウトカムになっていると思われる。医療スタッフによるサイクロフォスファミド尿中濃度と床面HD曝露のパイロット調査を昨年12月に実施した。集学的治療専門部会の中で結果を共有させて頂き、新しい曝露の調査、改善の方法を検討していく。曝露に関しては、全国的なe-learningを作ることができたので、また、患者さんのご家族用の情報提供用のツールなどについても、共有させて頂きたく検討している。

4. CSTDによるコアリングの調査結果 愛媛大学の薬師神先生、済川先生が中心となって連携協議会の中で実施したStudyで、CSTDによるコアリングが不明熱の原因になっているのではないかという視点において調査をおこない、CSTD使用あり vs CSTD使用なし：4.7% vs 0.1%との結果が得られ、論文化しScientific Reportsにアクセプトされている。このようなアウトカムも連携協議会の中で出すことが出来ている。

5. 愛媛大学薬師神先生よりirAEについての「在宅がん患者の副作用管理ツール」 3月に愛媛新聞でも紹介されているが、ITを用いた「在宅がん患者の副作用管理ツール」(スマホやタブレットを使って患者さんと病院が常に有害事象に関するデータを共有できるシステム)について、愛媛大学の中央IRBで承認が得られ、連携協議会参加各施設の研究参加が出来る。<愛媛大学 薬師神先生>2年間無料で提供できるので、連携協議会以外の施設でも使って頂けると、助かります。

6. 放射線治療の病院間紹介状の提案 連携協議会の施設間で放射線治療の紹介を簡略化したいという意見が従来よりあったが、放射線科の医師の参加がしばらく途絶えており立案に至っていなかった。今回、四国がんセンター放射線科の濱本医師により放射線治療紹介FAX雛形の案を作成した。紹介状による情報共有の時間をとるよりも、簡略な形で紹介ができないかということ視点で、今年度の取り組みとして検討している。

7. 外来がん化学療法室のブラッシュアップセミナー 外来化学療法室の運用については、統一した運用法がないので、統一した形で何かできないか、というところで、県で統一した運用法を作成することを目標とした。国立がん研究センターでがん診療をおこなっている施設を中心とした通院治療室の現状と課題をテーマにしたセミナーが開催され、四国がんセンターが参加したので、今年度の半ば過ぎに研修会の開催を計画している。「実践から学ぶ がん薬物療法多職種チーム研修」として、医師・看護師・薬剤師・MSW等の相談員4人1チームをつくり、治療の流れ、有害事象の出現形を研究し、対応方法を考えるセミナーを計画している。5大がんの治療の流れについてe-learningを受講した後に、グループワークを含む1日の実地研修をおこなう。皆で学んでいきましょう。

8. がんサバイバーシップについて 日本サポーターケア学会と合同で、サバイバーシップの対応について何とかしていきたいと、e-learningや研修会の開催を検討している。研修会は愛媛で開催という案もあるので、その際には先生方にお声かけさせて頂きます。ご協力をお願いします。サバイバーシップについても、病院全体でサポートをおこなっていく

体制をつくっていきたいと考えている。

《質問特になし》

7) がん看護専門部会（資料 14）

＜がん看護専門部会 大西部会長＞

・昨年度の活動報告

定例会を2回実施した。がん看護実践能力向上 WEB 研修会は、初めての試みとして WEB 研修、自施設実習を取り入れたため、研修対象者を拠点病院に限定して開催させて頂いた。9名の応募があり、受講生全員が研修を終了することができた。トピックス研修は、募集人数より多くの応募があり、ニーズに合った研修を開催することができた。

・がん看護実践能力向上研修会の活動について 令和3年度は第3期がん対策推進基本計画の分野別施策を達成するために、目的および内容を変更して「がんと診断された時からの緩和ケア」「ライフステージに応じたがん対策」にスポットをあてて、研修計画を立案して開催した。受講生参加施設においては、講義・実習の対応のみならず自施設の研修企画委員が実習生にかかわることができるようにというところで支援を頂いた。評価として、目標は達成できた。アンケートの結果を踏まえて課題も明確になっている。それらを踏まえて、令和4年度の計画は、日程を8.5日間程度に増やして講義内容の追加、中間評価・フォローアップ研修の開催、そして、現時点においては四国がんセンターにおいての実習を計画している。より効果的な研修が実践できるよう、現在、研修実施要項、ファシリテーターマニュアルの見直しに取り組んでいる。

定例会は2回の開催を予定している。

《質問特になし》

＜橋根幹事長＞

専門部会報告全体を通して確認事項、質問など、お気付きの点があれば事務局まで連絡をお願いします。

《質問・意見等特になし》

8. 愛媛県におけるがんの医科歯科連携推進に向けて（資料 15）

＜橋根幹事長＞

当初協議会が始まった時は歯科医師会から参加して頂いていたが、事務局の勝手により途中から連絡が途絶えていた。今年度から再度歯科医師会とも連絡をとり合って連携をしていけたらと思います。それに関して、当院の歯科医師から報告事項があるので、よろしくをお願いします。

＜四国がんセンター歯科医師 古川＞

当院のようながん専門病院でも「全ての患者」に「必要な口腔管理」を提供できておらず、重要度の高い患者から対応している。また、一般的には病院内に「がん医科歯科連携システム」の構築がない、または、構築されていても活用されていない場合も多く、患者が紹介状を持参せず、がん治療中であることも伝えずに地域の歯科医院等で歯科受診をしている事が推測される。これは、患者にとっても歯科医院にとってもリスクが高い。そこで、すべてのがん患者が必要な歯科治療・口腔管理を安心して受けられる体制の構築が必要であるが、病院歯科だけでは対応が難しく「歯科開業医」との連携が重要となってくる。

全国におけるがん医科歯科連携の現状は、がん治療開始前からの歯科受診は手術、抗がん剤ともに増加している。しかし、愛媛県においては不十分な面もある。

(参考) 開業歯科医院における周術期口腔機能管理計画策定数

	算定医療機関	算定回数
1位	広島県 838	5496
32位	愛媛県 37	289

がん治療病院とかかりつけ歯科との医科歯科連携推進するため、下記の事項を行いたい。

■ 県内の歯科医療従事者のがんについてのレベルアップ

- ・ 歯科医師、歯科衛生士向けのがん関係講習会開催▶歯科衛生士会は開催予定
- ・ 歯科衛生士会の協議会への参加

■ 県内での医科歯科連携の構築、歯科医師会とのさらなる連携

- ・ がん治療医の先生方に負担のかからない仕組み
 - ▶ 地域連携室等で対応（紹介先の歯科医院の選定、診療情報提供書作製）
 - ▶ 担当医の先生は書類の内容チェックと捺印を行う（負担軽減）
- ・ かかりつけ歯科の先生方がわかりやすい仕組み
 - 依頼が少ないと依頼内容や算定、書類がわかりにくい
 - ▶ 県内で医科歯科連携に関する書類を統一してどの病院から来ても同じ対応
 - ▶ 紹介状に必要な書類や処置別の対応方法の要点を同封等

《質問特になし》

< 橋根幹事長 >

歯科医師会との連携も途絶えていたようなので、今年度からまた復活してこのような活動もすすめていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

予定議題はこれで終了しますが、その他追加事項等、何かあればお願いします。

< 四国中央病院 >

当院は本年度地域がん診療病院の申請を検討していることを報告させていただきます。またその節はよろしくお願いたします。

閉会の挨拶<山下協議会会長>

本日は日常診療終了後のお忙しい中、このような時間をとって頂き、報告会を中心にさせて頂きましたが、ご参集本当にありがとうございました。特に新たな取り組みとしては、一旦歯科の先生の参加が途絶えていたところ、また新たな取り組みがはじまったという報告がありました。宇摩地区に関して、以前に検討課題にさせて頂いていたところであるが、四国中央病院より新たに地域がん診療病院への申請を考えて頂いているということで、しっかりと、今後5月以降、ヒアリング等を始めて検討させて頂けたらと思っております。また皆様方に情報共有させて頂きますので、ご検討、ご意見等、よろしく願いいたします。県の方からも、中間報告の状況も皆様に周知頂けたかと思いますが、よろしいでしょうか。全般通じて追加ご発言がないようでしたら、これで本日のがん診療連携協議会を終了させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

《質問・意見等特になし》

閉会